

23) 内視鏡室

1. 理念および目的

内視鏡室は杏林大学医学部附属病院の外来・入院患者の上・下部消化管内視鏡検査ならびに気管支内視鏡検査を担当し、高度で安全かつ適切な内視鏡診療を遂行することを目的としている。基本的理念として患者満足度の高い内視鏡検査を挙げ、内視鏡担当医の責任を明確にし、患者側に立った思いやりのある丁寧な検査を心がけている。

2. 運営と現況

内視鏡室は内視鏡室長、看護師長、内視鏡室医長、ならびに利用する臨床各科の委員からなる運営委員会の決定に基づき運営されている。検査の担当として、消化器内視鏡検査のスタッフは、消化器内科・一般外科医師47名（学会認定指導医10名，学会認定専門医16名を含む）、気管支内視鏡のスタッフは、呼吸器内科・呼吸器外科医師29名（学会認定指導医 6名，学会認定専門医 8名を含む）、看護師9名（うち師長1名）、内視鏡検査業務補助3名、事務職1名で構成されている。内視鏡施行件数は、年間10,259件である。詳細を表1、2に示す。

3. 学生および研修医教育の現況と問題点

教育病院としての性格から学生・研修医への教育体制も重要である。全ての内視鏡が電子スコープとなり、学生や研修医も常時検査内容を正確に把握できるようになっている。スコープの管理などについて、学生・研修医の教育を図るため、専属教育スタッフの充実が必要である。

4. 今後について

検査施行数はより増加し、さらに時間を要する内視鏡的治療件数も急増してきている。検査施行医の増員を図り、予約待ち時間の短縮に努める。内視鏡検査は常に医療事故や偶発症のリスクがあり、安全対策マニュアルの徹底を励行する。またその対策も含め、専属スタッフの増員などが重要な課題である。

実績（H26年4月1日～H27年3月31日）

表1 診断

上部消化管検査	6,574件
下部消化管検査	3,278件
ERCP	449件
EUS	140件
気管支鏡	443件
腹腔鏡	17件

表2 治療

EMR	(上部)	2件	上部止血	81件
	(下部)	573件	食道静脈瘤治療	55件
ESD	(上部)	51件		
	(下部)	10件	異物除去	10件
APC癌治療		3件	食道狭窄拡張	39件
EST		169件	EPBD	9件
ステント挿入		45件	超音波内視鏡下穿刺術	45件
総胆管結石摘石		115件		

